

# 豊かな情報社会に向けての情報リテラシの課題

## Issues in Information Literacy towards Abundant Information Society

魚田 勝臣<sup>†</sup>

Katsuomi UOTA<sup>†</sup>

<sup>†</sup> 専修大学 名誉教授

<sup>†</sup> Professor Emeritus, Senshu University

### 要旨:

小論では、情報社会のリスク、パーソナルデータの取扱いおよびメディアリテラシについて述べる。

### Abstract:

In the paper, we describe the risks in the information society, the treatment of the personal information and the media literacy.

### 1. はじめに

情報社会の進展において、パーソナルデータを主な情報源とするビッグデータの利活用が進み、生活を便利にする半面、リスクが顕在化している。第9章では、情報社会のリスクを理解し、パーソナルデータの取扱いとプライバシーの問題を考える。関連して番号法（マイナンバー法）について、その狙いや効果などについて理解する。また主要なメディアの特質を考え、批判的に読み解くことの重要性を理解する。最後にエネルギー問題を題材に、本書で学んだ情報リテラシの手法全体を反芻し、豊かな情報社会を構築継承するために、市民一人ひとりが、自ら思考し判断し表現していくことの大切さに言及する。

### 2. 豊かな情報社会に向けて

第9章は4つの節から構成している。

- 9.1 情報社会のリスク
- 9.2 個人情報とプライバシー
- 9.3 メディアリテラシ
- 9.4 豊かな情報社会実現のために

#### 2.1 情報社会のリスク

情報社会の主なリスクは、パーソナルデータの収集と統合によって蓄積される個人に関するデータが漏洩または拡散することによってもたらされる。9.1節ではこのことを取りあげている。2つのテーマ、情報社会の進展とリスクとパーソナルデータの収集と統合に分けて考える。前者において、情報社会の進展によって、新たなサービスが創出・提供されて、生活を便利にしていることを認識し、その源が後者：パーソナルデータの収集と統合にあることを理解させる。

#### 2.2 個人情報とプライバシー

情報社会でのリスクへの理解を受けて、9.2節では個人情報とプライバシーという少し重い目の話題を取り上げる。この節は、個人情報とプライバシーの保護と番号法（マイナンバー法）とから構成している。

##### (1) 個人情報とプライバシーの保護

この項では、3つの話題：プライバシー保護への世界の動き、日本の個人情報保護および個人情報保護とプライバシー保護

を取り上げている。

##### a. プライバシ保護への世界の動き

欧米におけるプライバシー保護の考え方として「古典的プライバシー権」（そっとしておいてもらう権利）と「現代型プライバシー侵害＝情報収集型侵害」（知らないうちに個人の情報が収集・統合されることへの懸念）があることを理解する。西欧諸国で「自己の情報をコントロールする権利」と捉えて対応を強めているのに対し、米国では個人情報の自由な利用を認める立場を取っている。これは、ITを活用した新しいビジネスの展開を重視しているためである。両陣営の対立を深化させないために、経済協力開発機構（OECD）がOECD8原則を制定したことを理解する。

##### b. 日本の個人情報保護

日本の個人情報保護は、OECDガイドラインに沿って2003年5月に個人情報保護法が成立したことを示す。OECDに遅れること23年、西欧と米国の対立の狭間において、この分野での日本の後進性と現代社会への影響を考えさせる材料を提供している。

##### c. 個人情報保護とプライバシー保護

プライバシー保護は、憲法13条で謳われている「基本的な幸福追求権としての自己像の制御・人間の尊厳保護、そのための自己情報コントロール権の確保」である。つまり、自分で自分の情報をコントロールすることによって、自らの尊厳を確保し、幸福な生活を送る権利を保持することである。

他人のプライバシーを侵害しないように、個人に関する情報の取扱いに十分配慮したい。また自分自身の情報はしっかり守るということを強調している。

##### (2) 番号法（マイナンバー法）

この項では、4つの話題：個人番号（マイナンバー）とは、個人番号（マイナンバー）の目的、主な実施スケジュールおよび番号法に対する期待と懸念を取り上げている。

番号法は2013年5月に制定された「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」の略称であって、マイナンバー法という通称でも知られている。今後の市民生活に重要な影響を及ぼすだけでなく、巨額の投資と運営費を伴うので、財政負担にもなる。そのため重要項目としての位置づけをしている。

##### a. 個人番号（マイナンバー）とは

個人番号は、住民票をもっている国民一人ひとりに付与す

る 12 桁の番号である。漏洩した場合など特別の例外を除き終生不変とされている。

b. 個人番号 (マイナンバー) の目的

個人番号は、行政を効率化し、国民の利便性を高め、公平かつ公正な社会を実現する社会基盤である。

c. 主な実施スケジュール

2015 年 10 月「通知カード」が配布された。これは個人番号を知らせる紙のカードである。順次システムが開発されている。

d. 番号法に対する期待と懸念

マイナンバー法に対する期待の第一は、「公平・公正な社会の実現」である。この中で、社会保障と税に関する不公平感の緩和を取り上げる。また、プライバシーの問題とシステムの実現と運営に要する費用と効果の問題への懸念も大きい。

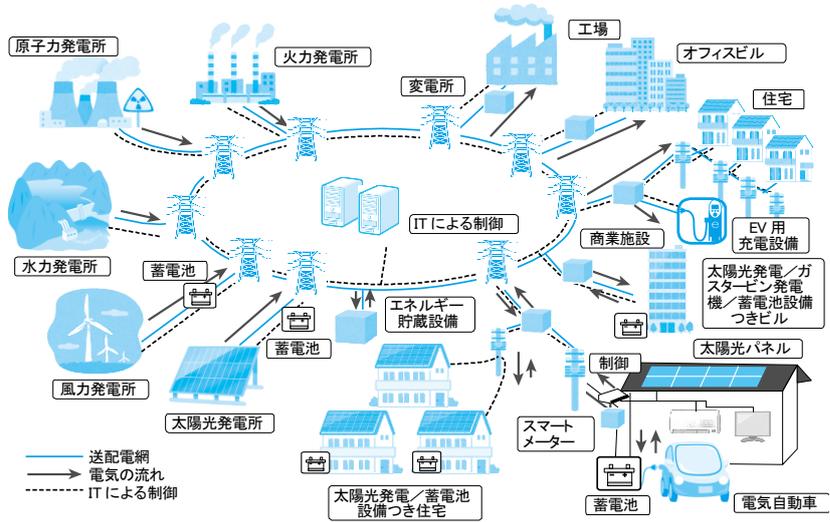


図1 スマートグリッドの概念図 (経済産業省)

2.3 メディアリテラシ

メディア (media: 媒体) という言葉は、二つの意味で使われる。一つは情報の記録・保管・伝達のための物や装置、もう一つはコミュニケーションの手段である。9.3 節では後者について、一つから不特定多数へ情報を発信するマスメディア、複数の送り手・送り手の間で情報が行き交うネットワークメディアおよびパーソナルメディアの3つのメディアを取りあげている。

メディアの本質を知るために、カナダ・オンタリオ州教育省が呈示した「メディア教育の制度化——オンタリオ州の経験」を参考に uptake, こうしたメディアが構成する現実を批判的 (クリティカル) に読み取りかつ表現する能力ことであると考えて強調する。

2.4 豊かな情報社会実現のために

本書では、環境問題の中で身近なごみ問題を題材にして、解決策を考えレポートやプレゼンテーションとして表現する過程を学んできた。9.4 節では2つのテーマ: 重要課題・解決策の模索および豊かな情報社会実現のために、を取り上げている。

(1) 重要課題・解決策の模索

この項では、生存・生活の基盤であるとともに環境問題をもたらす主要な原因であるエネルギー問題を取り上げて、解決策を考える過程の全体を反芻する。つまり、エネルギー問題について、本書で学んだ問題解決の手順: 情報収集と整理→問題発見と情報分析→解決案創出→レポートやプレゼンテーションに則って考える。これにより中学校で学んだエネルギーの変換や保存の法則など理科の学習を反芻できる。上記課題解決手順のうちの情報収集と整理→問題発見と情報分析を踏むと、スマートグリッドが浮かび上がる。その中の経済産業省が提唱する概念図 (図1) を例にとり、電力の供給→電力の蓄積→電力の需要→電力の需要・供給と蓄積のコントロールについて考えさせる。図中の電力系統に沿って点線で示されているのが情報の流れで、電気の流れに沿って情報の流れがあり、それを情報システムがコントロールすることを理解させ情報システムが全体を支えていることを認識させる。

(2) 豊かな情報社会実現のために

この項では、未来を希望の持てる豊かな情報社会にするために、われわれがどのような行動を取るべきか考える。

情報社会では、日常生活空間やネット空間に情報が溢れ、検索によって、一見有用と思われる解答が得られることもある。この環境下で、信憑性のある情報に到達するには自ら情報を収集・選択し、分析すること、突き詰めて言えば自分で考えることが大切である。つまり、情報に基づいて、思考・判断し表現することが重要である。本書で学び身につけた、情報リテラシ、つまり思考力・判断力・表現力が基盤となる。

こうした学びを通じて、豊かな情報社会を実現するためには社会を構成する一人ひとりが、正しいと思われる情報を得て判断し、表現していくことが大切か認識できると思われる。地域や国、地球、宇宙を持続させて継承する責任は、市民一人ひとりにあることを忘れないよう訴えて締めくくる。

3. まとめ

終章「豊かな情報社会に向けて」では、現代メディアを駆使しているビッグデータ、AI、自動運転車、マイナンバー、プライバシーなどの重要なテーマについて考えている。また人類が地球を持続させて生きながらえるためのエネルギー、環境、人口、格差、解決策の中核として情報・情報システムを如何に考えるかという、少し重い課題をこれまで学んだやり方で考えている。

参考文献

[1] 魚田勝臣編著, 渥美幸雄, 植竹朋文, 大曾根匡, 関根純, 永田奈央美, 森本祥一著, グループワークによる情報リテラシ〜情報の収集・分析から, 論理的思考, 課題解決, 情報の表現まで, 共立出版, 2015.

[2] 大曾根匡編著, コンピュータリテラシ 情報処理入門 第3版, 共立出版, 2015.

[3] 情報システム学会編, 新情報システム学序説—人間中心の情報システムを目指して—, 情報システム学会, 2014.

[4] 魚田勝臣編著, 渥美幸雄, 植竹朋文, 大曾根匡, 森本祥一, 綿貫理明著, コンピュータ概論 情報システム入門 第6版, 共立出版, 2014.